女子短大生とその母親における被服の嗜好・選択行動の研究(第1報)

A Study on the Preferences and Behavior in the Choice of Clothing of Junior College Students and Their Mothers (Part 1)

(1988年4月7日受理)

近 藤 信 子
Nobuko Kondoh

Key words: 着装態度，選択行動

1．緒　　言

女子短大生の被服への関心度は一般に高いとされており，このことがもたらす女子短大生の被服行動に関する研究例は数多い。本報の研究目的は被服の着装状態と選択行動に関して，自らの被服に対する嗜好や選択行動がほぼ確立していると思われる女子短大生と，その母親との関連において明らかにしようとするものである。これは態度の学習性という性質に着目したものである。つまり被服の嗜好・選択行動は，過去の経験・学習によって構成された心理的枠組によって規定される。とするもので，特に子供の成長段階において長期にわたって連続的に接触する母親の影響によるところが大きいであろうという仮説のもとに研究を進める。第1報では両者の被服行動の特性を推測する手掛かりとするため，学生とその母親の着装態度および被服の選択・購入の実態を調査し，両グループの集団傾向として分析を行った。

2．調 査 方 法

昭和61年12月に女子短大生 274名およびその母親を対象に調査を実施した。短大生は一斉に実施しその場ですべて回収した。母親においては留置法による調査で，どちらも質問紙を配布した。回収率は短大生 100%，母親は58% (158名)であった。対象者の居住地域は，岡山・広島両県下で，質問項目は基本属性，世帯あたりの被服費割合，着装態度，被服の選択・購入の実態についてで，5段階尺度の回答を設定した。分析方法は単純集計，クロス集計，数量化II類による分析，因子分析，分散分析である。これらの処理は大阪大学大型計算機センター・SPSS-X統計パッケージを使用した。

3．結果および考察

3．1　調査対象者の特性

調査対象者の属性を図1に示す。母親の年齢は39～58歳で65%が何らかの形で職業をもっている。世帯内で被服にかける費用が最大の者は女子短大生で，過半数を示す。長期あるいは短期のアルバイトをしている者，アルバイトはしていない者，ほぼ同率である。

一般に女子短大生の被服に対する関心度は高いとされており，これは家族の中で被服費割合が大きい，つまり衣料最多消費者であるということからもうかがえる。

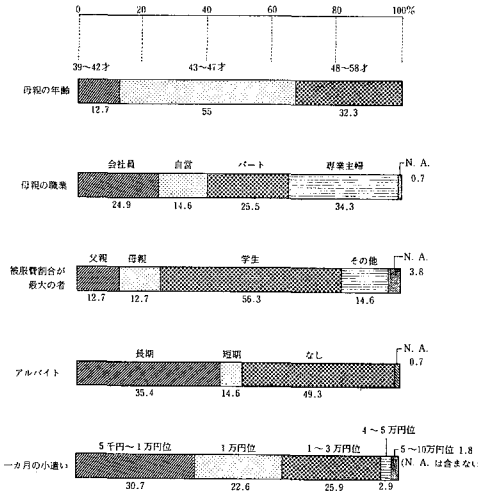


図1　基本属性

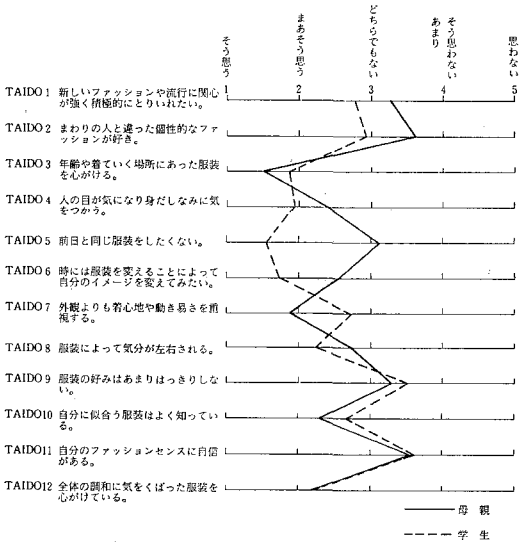


図2　着装態度についてのプロフィール

3.2　被服の着装態度

着装態度について12項目（TAIDO 1～12）の質問を設け，5段階尺度により評定してもらった。図2は平均評点による母親と学生の着装態度についてのプロフィールを示したものである。項目1，2，5，6，7に両者の差がみられる。また項目9，10，11，12はあまり差がみられない。

図3は，12項目の単純集計結果を母親と学生との関連において表したものである。その結果両者には次のような服装に関する嗜好傾向がみられる。

1）「新しいファッションに関心が強く積極的にとりいれたい」とするのは学生の方が肯定する率が高い。

2）「まわりの人と違った個性的なファッションを好む」率は学生の方が高い。母親は個性的ファッションを嫌う率が高く62.6%を示している。

3）「年齢や着ていく場所にあった服装を心がけている」については母親・学生ともに肯定する率が高く，特に母親は92.4%と高い率を示している。

4）「人の目が気になり身だしなみに気をつかう」についても母親・学生ともに肯定する率が高く，特に学生は81.7%と高い率を示し，母親の63.1%を大きく上回っている。

5）「前日と同じ服装をしたくない」とするのは学生に多く88.7%と非常に高い率を示している。それに対し母親は半数近くが否定しており，学生との差がみられる。

6）「時には服装を変えることによって自分のイメージを変えてみたい」については，母親・学生ともに肯定する率が高いが，学生の方にその傾向は強い。

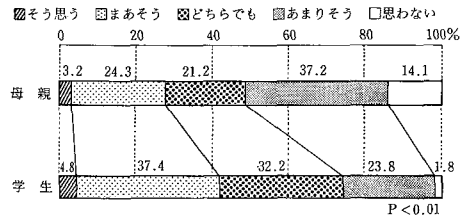
7）「外観よりも着心地や動き易さを重視する」については，母親の79%が肯定している。それに対し学生の肯定する率は38.4%と低くなっている。

8）「服装によって気分が左右される」については，母親・学生とも過半数が肯定しているが，学生の方にその傾向は強い。

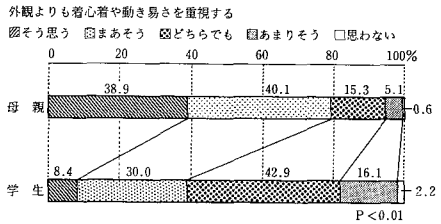
9）「服装の好みはあまりはっきりしない」とする者よりも，好みがはっきりしている者の方が多く，母親・学生とも過半数を示している。

10）「自分に似合う服装はよく知っている」については，母親の67.8%，学生の46.4%が肯定している。

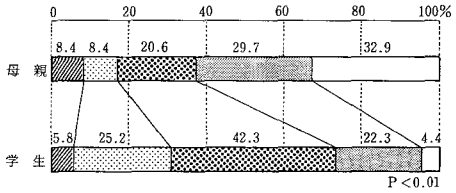
新しいファッションや流行に関心が強く積極的にとりいれたい



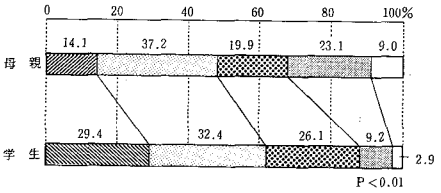
外観よりも着心着や動き易さを重視する



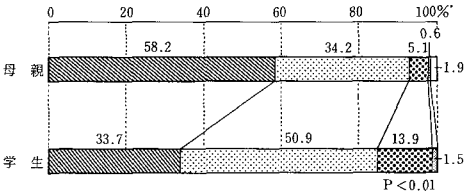
まわりの人と違った個性的なファッションが好き



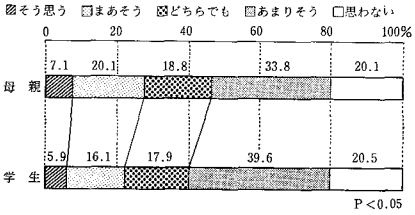
服装によって気分が左右される



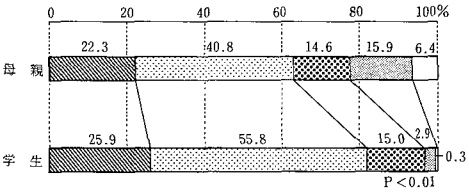
年齢や着ていく場所にあった服装を心がける



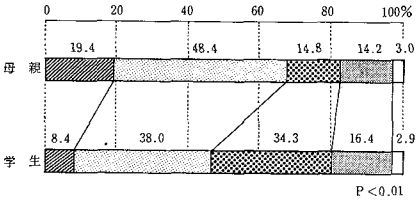
服装の好みはあまりはっきりしない



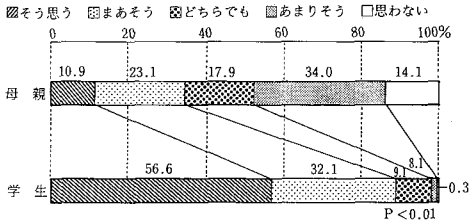
人の目が気になり身だしなみに気をつかう



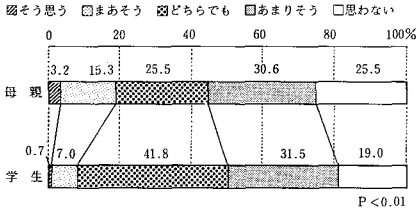
自分に似合う服装はよく知っている



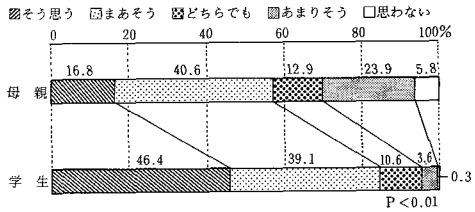
前日と同じ服装をしたくない



自分のファッションセンスに自信がある



時には服装を変えることによって自分のイメージを変えてみたい



全体の調和に気をくばった服装を心がけている

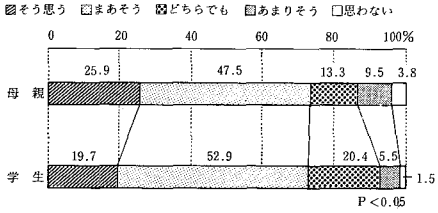


図3　着装態度

11）「自分のファッションセンスに自信がある」については，母親・学生とも否定する率が高く，ファッションセンスにあまり自信をもっていない。

12）「全体の調和に気をくばった服装を心がけている」については，母親・学生ともに肯定する率が高く，73.4％と72.6％を示し，ほぼ同率である。

以上のことから，学生のファッション性への評価は高く服装を自己表現の手段としてとらえ，楽しむ傾向にあることがわかる。また，母親に比べて流行現象には関心が強く，人の目を気にしながらも，新しいファッションをとりいれようとしているが，自分に似合う服装はよく知らないし，ファッションセンスにも自信がない。これに対して母親は，同じくファッションセンスに自信はないものの，自分に似合う服装はよく知っており，ファッションよりも機能性・実用性を重視する傾向がある。また，服装の着用に関して多くの社会規範があることを認識しており，年齢や着ていく場所にあった服装を心がけている。

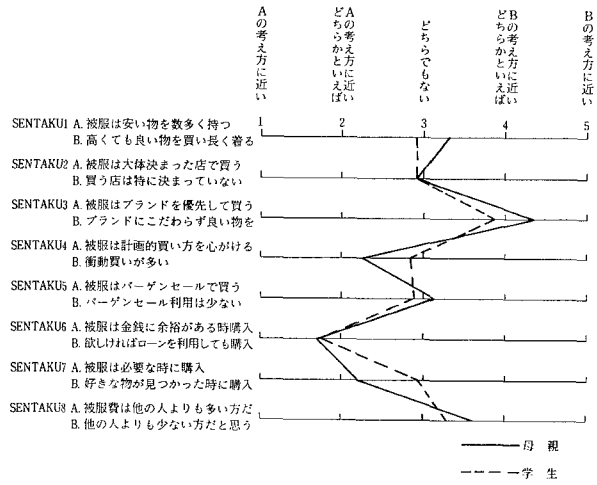


図4　被服の選択行動についてのプロフィール

3.3　被服の選択行動

被服の選択・購入について母親と学生の行動傾向を把握するために，8項目（SENTAKU 1～8）の質問を設け，5段階尺度により評定してもらった。図4は

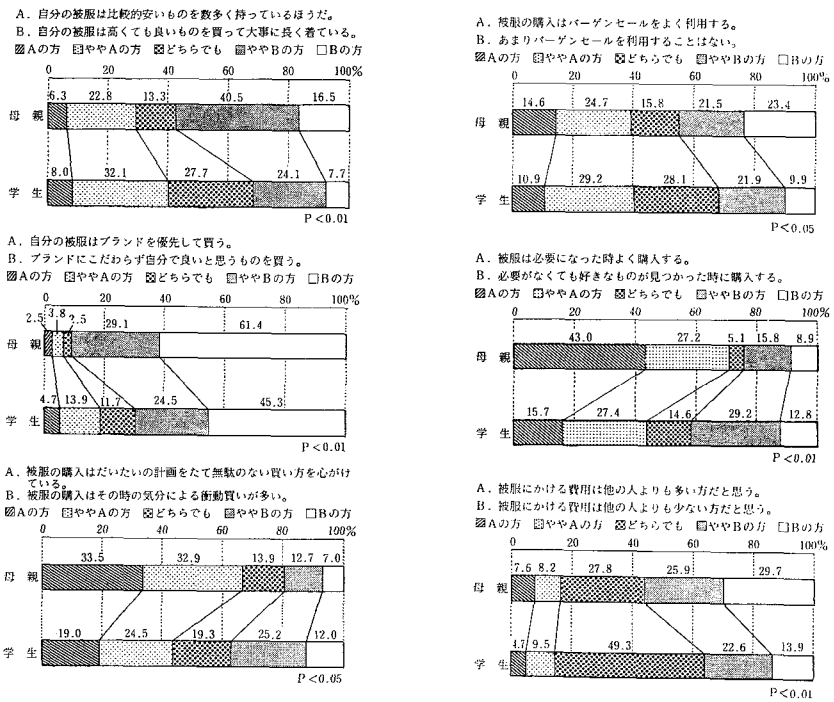


図5　被服の選択行動

平均評点による母親と学生の被服の選択行動についてのプロフィールを示したものである。項目1，3，4，7に差がみられる。

図5は，被服の選択行動の項目について単純集計し，母親と学生との関連において表したものである。両者に有意差が認められる6項目について図示する。

1）「自分の被服は比較的安い物を数多くもっているほうだ」とする者は，比較的学生に多く，それに対して「自分の被服は高くても良い物を買って大事に長く着ている」とする者は母親に多い。

2）「自分の被服はブランドを優先して買う」とする者は，学生の方が僅かではあるが肯定する率は高くなっている。「ブランドにこだわらず自分で良いと思う物を買う」とする者は，母親・学生ともに多く，特に母親に顕著である。

3）「被服の購入は大体の計画をたて無駄のない買い方を心がけている」とする者は母親に多く，学生との差は大きい。

4）「被服の購入はバーゲンセールをよく利用する」については，母親・学生とも肯定する率はほぼ同じである。「あまりバーゲンセールを利用することはない」とする者は母親に多い。

5）「被服は必要になった時よく購入する」については，母親の肯定率は高く，学生との差が大きくなっている。

6）「被服にかける費用は他の人よりも多い方だと思う」については，母親・学生とも肯定する率は約15%とほぼ同じである。それに対し「被服にかける費用は他の人よりも少ない方だと思う」については，母親の方が肯定する率は高く55.6%を示す。

前述の設問の結果とあわせてまとめると，学生は個性的ファッション嗜好が強く，人の目を気にしており，前日と同じ服装をしたくないなど，被服の個別化傾向が大きく，そのため自分の被服は安物でもよいから数多く持ちたいとしており，その反面ブランド志向が強く，必要がなくても好きな物が見つかった時に購入するという衝動買いが目立つ。それに対し母親は，新しい個性的ファッションはあまり好まず，むしろ被服の機能・実用性を重視しており，年齢や着ていく場所にあった服装を心がけるという同調性傾向が大きく，そのため高価でも良い物をもちたいとしており，被服は必要な時によく購入するという計画的買い方を心がけている。以上の結果より学生はファッションリーダーとして，母親はファッション追随者としての行動傾向がみられる。

3.4　被服の着装態度と選択行動との関連

被服の着装態度と選択行動に関する質問項目とのクロス集計の中で，クラマー値が高く，有意差の認められる結果のうち，いくつかの例を説明する。

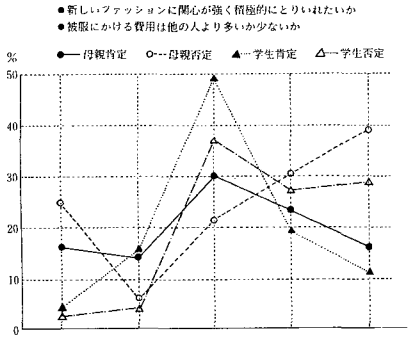
図6は「新しいファッションに関心が強く積極的にとりいれたいか」と，「被服にかける費用は他の人より多いか少ないか」という質問項目をクロス集計（母親：$\sqrt{C_r}=0.24$　$x^2=44.73$　$P<0.01$，学生：$\sqrt{C_r}=0.25$　$x^2=70.79$　$P<0.001$）し，両者の関連をグラフに表したものである。着装態度の質問項目に対して肯定する者と否定するものとに区別し，それぞれの選択行動を5段階でとらえた。新しいファッションに積極的態度を示す学生は，被服にかける費用は他の人よりも多い方だとしており，母親においては，その傾向はみられない。逆に新しいファッションに対して消極的な態度を示すものは，被服にかける費用は他の人よりも少ないとしており，両者に同様な傾向がみられる。

図7は「新しいファッションに関心が強く積極的にとりいれたいか」と，「被服の購入は大体の計画を

たて無駄のない買い方を心がけているか，あるいは衝動買いが多いか」という質問項目をクロス集計(母親：$\sqrt{C_r}=0.24$　$x^2=37.03$　$P<0.02$)し，グラフに表したものである。新しいファッションに積極的態度を示す母親は，そうでない者より衝動買いをする率が高く，新しいファッションには消極的態度を示す母親は計画的買い方を心がけている傾向がみられる。

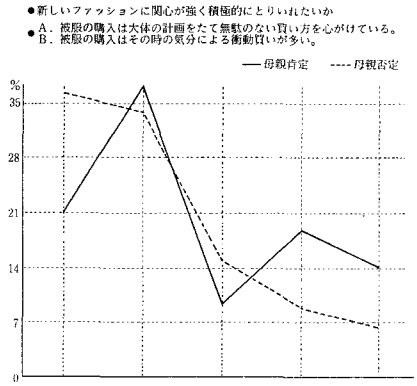
図8は「外観よりも着心地や動き易さを重視するか」と「自分の被服はブランドを優先して買う，あるいはブランドにこだわらず自分で良いと思うものを買うか」という質問項目をクロス集計（母親：$\sqrt{C_r}=0.28$　$x^2=63.45$　$P<0.001$）し，グラフに表したものである。多くの母親が着心地や動き易さという実用性を重視しているが，そのように思う者ほど，ブランドにこだわらず自分で良いと思うものを買う傾向にある。

図9は「自分のファッションセンスに自信があるか」と「被服は必要になった時よく購入する，あるいは必要がなくても好きなものが見つかった時に購入するか」という質問項目をクロス集計（学生：



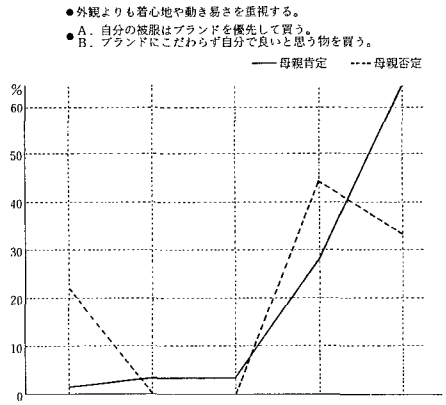
	多　い	やや多い	どちらでも	やや少ない	少ない
母親肯定	16.3	14.0	30.2	23.3	16.3
母親否定	25.3	6.3	21.5	30.4	39.2
学生肯定	4.3	15.7	50.0	19.1	11.3
学生否定	2.9	4.3	37.1	27.1	28.6

図6　着装態度と被服の選択行動の関係



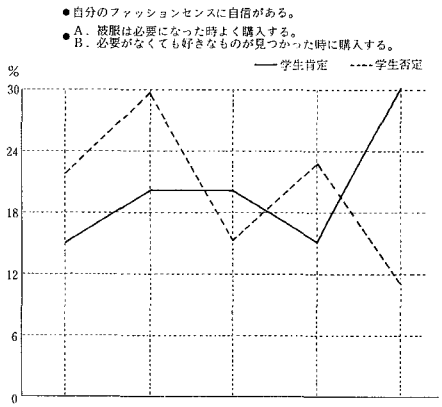
	Aの方	ややAの方	どちらでも	ややBの方	Bの方
母親肯定	20.9	37.2	9.3	18.6	14.0
母親否定	36.3	33.8	15.0	8.8	6.3

図7　着装態度と被服の選択行動の関係



	Aの方	ややAの方	どちらでも	ややBの方	Bの方
母親肯定	1.6	3.3	3.3	27.6	64.2
母親否定	22.2	0	0	44.4	33.3

図8　着装態度と被服の選択行動の関係



	Aの方	ややAの方	どちらでも	ややBの方	Bの方
学生肯定	15.0	20.0	20.0	15.0	30.0
学生否定	21.7	29.7	15.2	22.5	10.9

図9　着装態度と被服の選択行動の関係

$\sqrt{C_r}=0.22$　$x^2=64.10$　$P<0.001$）し，グラフに表したものである。自分のファッションセンスに自信があるとする学生は，自信がないとする者より，被服は必要がなくても好きなものがみつかった時に購入しており，それに対してファッションセンスに自信がないとする学生は，必要になった時よく購入する傾向にある。以上のことからも，先に述べたような，両者の被服行動の特徴が明らかになった。

3.5　質問項目による判別効果

母親と学生の2グループを外的基準に被服の嗜好・選択行動を説明変数として数量化理論第II類による解析を行った。取り上げた変数は被服の嗜好に関する12項目（着装態度1～12），選択・購入に関する6項目，計18項目90カテゴリーで構成されている。表1は要因分析結果である。

規定力の大きい項目についてみると，レンジ・偏相関係数とも順位の上位は被服の嗜好についての項目に集中しており，母親グループと学生グループの被服行動を判別するのに有効な要因は，被服の選択行動よりも，嗜好性にかかわる要因であるといえる。レンジ順位の1位は「前日と同じ服装をしたくないか」，次いで「時々は服装を変えることによって自分のイメージを変えてみたいか」など，変化のある服装を好むかどうかについての項目で，両グループの被服行動の判別に大きく寄与している。次いで「まわりの人と違った個性的なファッションが好きか」，「自分に似合う服装はよく知っているか」，「自分のファッションセンスに自信があるか」などの項目が続く。さらに，他の説明変数の効き方を一定にしたとき，判別に寄与する項目が両グループにどれ位効果的であるかを偏相関係数でみると，1位の「前日と同じ服装をしたくないかどうか」については，0.47008 を示しており，規定力が最も大きくなっている。以下，数値の高い順に項目をみると，レンジとほぼ同じ順位になっている。

選択・購入については「被服の購入は大体の計画をたて無駄のない買い方を心がけている・その時の気分による衝動買いが多い」についての項目であるが，偏相関係数の値の順位は7位となっており，判別にやや効果的である。

次にウェイトからサンプルの反応結果をみる。ウェイトの＋は母親グループに作用し，－は学生グループに作用しており，したがってウェイトが大きいカテゴリーほど，母親の被服行動をとらえることにまたウェイトが小さいカテゴリーほど学生の被服行動をとらえることに寄与していると解釈される。

図10は，母親グループと学生グループのケース得点の累積度数分布を図示したものである。左側が学生グループで右側が母親グループを表している。このグラフの交点を目安として両群に判別したとき，約86% の判別的中率になる。また，判別効果の測度である相関

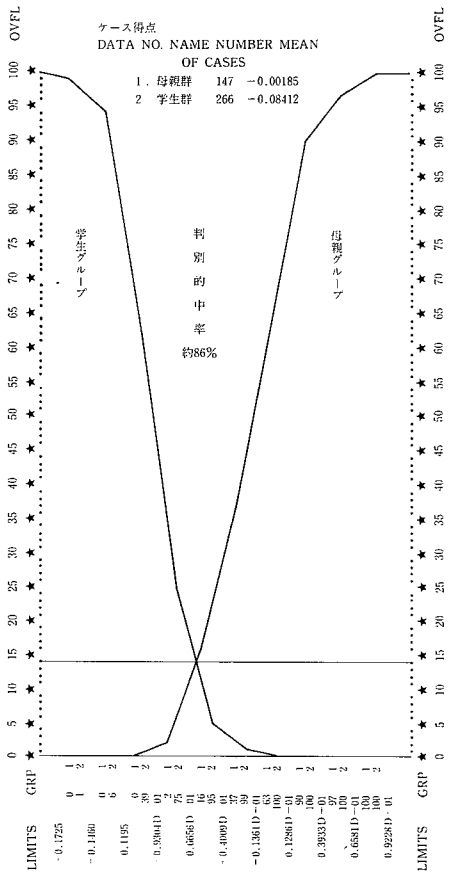


図10　グループ別累積度数分布図表

表1　要因分析結果

ア　イ　テ　ム	カテゴリィ（選択肢）	標本数	ウェイト	レンジ（順位）（順位）偏相関係数
1）A．自分の被服は比較的安いものを数多く持っているほうだ。 B．自分の被服は高くても良いものを買って大事に長く来ている。	Aの考え方に近い	31	−0.149488D-02	0.132094D-01
	どちらかといえばA	117	−0.583208D-02	
	どちらでもない	95	−0.404197D-02	(17)　(12)
	どちらかといえばB	127	0.737735D-02	
	Bの考え方に近い	43	0.408741D-02	0.14460
2）A．自分の被服はブランドを優先して買う。 B．ブランドにこだわらず自分で良いと思うものを買う。	Aの考え方に近い	17	0.103404D-01	0.225253D-01
	どちらかといえばA	41	−0.606000D-02	
	どちらでもない	35	−0.121850D-01	(7)　(13)
	どちらかといえばB	107	0.382632D-02	
	Bの考え方に近い	213	0.421278D-03	0.12803
3）A．被服の購入はだいたいの計画をたて無駄のない買い方を心がけている。 B．被服の購入はその時の気分による衝動買いが多い。	Aの考え方に近い	97	−0.560952D-02	0.156327D-01
	どちらかといえばA	116	0.986163D-02	
	どちらでもない	73	−0.577106D-02	(14)　(7)
	どちらかといえばB	86	−0.415719D-03	
	Bの考え方に近い	41	−0.348261D-02	0.16849
4）A．被服の購入はバーゲンセールをよく利用する。 B．あまりバーゲンセールを利用することはない。	Aの考え方に近い	49	0.547686D-02	0.189867D-01
	どちらかといえばA	116	−0.622904D-02	
	どちらでもない	98	−0.230745D-02	(12)　(10)
	どちらかといえばB	91	−0.795254D-03	
	Bの考え方に近い	59	0.127576D-01	0.15726
5）A．被服は必要になった時によく購入する。 B．必要がなくても好きなものが見つかった時に購入する。	Aの考え方に近い	104	0.962083D-02	0.209453D-01
	どちらかといえばA	113	−0.229069D-02	
	どちらでもない	45	−0.113244D-01	(10)　(11)
	どちらかといえばB	104	−0.851854D-03	
	Bの考え方に近い	47	−0.305374D-02	0.15672
6）A．被服にかける費用は他の人よりも多い方だと思う。 B．被服にかける費用は他の人よりも少ない方だと思う。	Aの考え方に近い	22	0.123505D-01	0.154864D-01
	どちらかといえばA	35	−0.917173D-04	
	どちらでもない	176	−0.313591D-02	(15)　(17)
	どちらかといえばB	100	0.166160D-02	
	Bの考え方に近い	80	0.146575D-02	0.93930D-01
7）新しいファッションや流行に関心が強く積極的にとりいれたい。	そう思う	18	0.110550D-01	0.145251D-01
	まあそう思う	133	0.392477D-03	
	どちらでもない	117	−0.403005D-03	(16)　(18)
	あまりそう思わない	119	−0.347011D-02	
	おもわない	26	0.803480D-02	0.93915D-01
8）まわりの人と違った個性的なファッションが好き。	そう思う	27	0.254126D-02	0.293579D-01
	まあそう思う	81	−0.103332D-01	
	どちらでもない	143	−0.553834D-02	(3)　(3)
	あまりそう思わない	102	0.410660D-02	
	おもわない	60	0.190247D-01	0.21856
9）年齢や着ていく場所にあった服装を心がける。	そう思う	174	0.797384D-02	0.254692D-01
	まあそう思う	189	−0.560011D-02	
	どちらでもない	44	−0.669601D-02	(6)　(8)
	あまりそう思わない	4	−0.142236D-01	
	おもわない	2	0.112457D-01	0.16267
10）人の目が気になり身だしなみに気をつかう。	そう思う	102	−0.345819D-02	0.221651D-01
	まあそう思う	211	0.160973D-02	
	どちらでもない	62	−0.402566D-02	(8)　(15)
	あまりそう思わない	28	0.127454D-01	
	おもわない	10	−0.941973D-02	0.11544
11）前日と同じ服装をしたくない。	そう思う	165	−0.220333D-01	0.665899D-01
	まあそう思う	122	−0.406972D-02	
	どちらでもない	50	0.183919D-01	(1)　(1)
	あまりそう思わない	54	0.445566D-01	
	おもわない	22	0.366519D-01	0.47008
12）時には服装を変えることによって自分のイメージを変えてみたい。	そう思う	148	−0.126070D-01	.434569D-01
	まあそう思う	162	0.141477D-02	
	どちらでもない	46	0.633845D-02	(2)　(2)
	あまりそう思わない	47	0.220546D-01	
	おもわない	10	0.308500D-01	0.26934
13）外観よりも着心地や動き易さを重視する。	そう思う	79	0.107690D-01	0.196169D-01
	まあそう思う	141	0.335230D-02	
	どちらでもない	138	−0.884793D-02	(11)　(5)
	あまりそう思わない	50	−0.294200D-02	
	おもわない	5	0.893848D-02	0.17273
14）服装によって気分が左右される。	そう思う	97	−0.194269D-02	0.210169D-01
	まあそう思う	135	0.185136D-02	
	どちらでもない	101	−0.615325D-02	(9)　(9)
	あまりそう思わない	59	0.125168D-01	
	おもわない	21	−0.850010D-02	0.15803
15）服装の好みはあまりはっきりしない。	そう思う	27	−0.194635D-03	0.160819D-01
	まあそう思う	70	0.325194D-02	
	どちらでもない	75	0.708750D-02	(13)　(14)
	あまりそう思わない	157	0.100953D-04	
	おもわない	84	−0.899439D-02	0.12542
16）自分に似合う服装はよく知っている。	そう思う	52	0.170829D-01	0.280151D-01
	まあそう思う	171	0.467863D-02	
	どちらでもない	113	−0.109323D-01	(4)　(4)
	あまりそう思わない	64	−0.642057D-02	
	おもわない	13	−0.323811D-02	0.20746
17）自分のファッションセンスに自信がある。	そう思う	6	0.165230D-01	0.259540D-01
	まあそう思う	40	0.185963D-01	
	どちらでもない	149	−0.594837D-03	(5)　(6)
	あまりそう思わない	128	−0.720035D-03	
	おもわない	90	−0.735770D-02	0.16975
18）全体の調和に気をくばった服装を心がけている。	そう思う	90	−0.155836D-02	0.103028D-01
	まあそう思う	212	−0.207937D-02	
	どちらでもない	75	0.822346D-02	(18)　(16)
	あまりそう思わない	28	−0.165117D-02	
	おもわない	8	0.131908D-02	0.97119D-01
相　関　比			0.800506	

表2　バリマックス回転後の因子負荷行列

	FACTOR 1	FACTOR 2	FACTOR 3	FACTOR 4
TAIDO 1	0.50665	0.02308	0.14986	-0.07906
TAIDO 2	0.54823	-0.05426	0.19712	-0.02979
TAIDO 3	-0.02944	0.55092	0.13336	0.18291
TAIDO 4	0.30538	0.53616	0.06387	-0.18441
TAIDO 5	0.57009	0.16691	-0.02820	-0.36705
TAIDO 6	0.64191	0.13259	-0.02391	-0.01973
TAIDO 7	-0.18654	0.11823	-0.08102	0.82407
TAIDO 8	0.48363	0.08429	0.06395	-0.06026
TAIDO 9	-0.01355	-0.15244	-0.32989	0.19062
TAIDO 10	0.04891	0.22576	0.61861	0.06738
TAIDO 11	0.26488	0.06427	0.62038	-0.03043
TAIDO 12	0.10489	0.66134	0.34075	-0.00843
固有値	3.03910	1.80858	1.19390	1.07231
寄与率(%)	25.3	15.1	9.9	8.9

比が0.800506とかなり高い数値が得られたことから，説明変数に用いた諸変数が両グループの判別に大きく寄与することが明らかになった。

3.6　着装態度の因子分析

以上から，母親と学生の被服行動における傾向の概要をもとめることができた。その結果，多くの共通性を見い出すことができ，また両者の世代間の格差も明らかになった。そこで次に母親と学生の被服行動における潜在的な因子を把握するため，調査データーをさらに因子分析した。両者の被服行動には多くの共通性も認められたことから，一つの集団傾向としてとらえ解釈を試みる。

表3　着装態度の因子分析

因子	質問項目No.	項目	因子負荷量
1	6）	時には服装を変えることによって自分のイメージを変えてみたい	0.64191
	5）	前日と同じ服装をしたくない	0.57009
	2）	まわりの人と違った個性的なファッションが好き	0.54823
	1）	新しいファッションや流行に関心が強く積極的にとり入れたい	0.50665
	8）	服装によって気分が左右される	0.48363
2	12）	全体の調和に気をくばった服装を心がけている	0.66134
	3）	年齢や着て行く場所にあった服装を心がけている	0.55092
	4）	人の目が気になり身だしなみに気をつかう	0.53616
3	11）	自分のファッションセンスに自信がある	0.62038
	10）	自分に似合う服装はよく知っている	0.61861
4	7）	外観よりも着心地や動き易さを重視する	0.82407

着装態度についての12の質問項目(TAIDO 1～12) について5 段階で評定してもらったデーターを因子分析し，固有値1.0 以上の4 因子を抽出した。累積寄与率は59．2%である。表2 はバリマックス回転後の結果である。各因子について，因子負荷量の大きい質問項目を表3 に示す。

第1因子は，自分を意識した服装の項目を表しており，いずれも自己のファッション志向が強くあらわれている。そこで「ファッション積極性の因子」と解釈した。

第2因子は，他人を意識した服装の項目を表しており，社会規範に基づいた被服行動をとる項目である。そこで「被服行動同調性の因子」と解釈した。

第3因子は，自己評価の高い項目で，「自己ファッション自信性の因子」と解釈した。

第4因子は，被服の機能・実用性を重視する項目で，「実利重視性の因子」と解釈した。

両者の被服行動をとらえると，ファッションは自己の外観イメージに強くかかわるものとしており，そのため流行などには敏感である。また社会規範を重視しているため，規定された被服行動をとっている。それでも，おしゃれに対しては積極的で，自己顕示の手段としてとらえており，被服の機能・実用性も十分評価しているという一般認識がよみとれる。

3.7　因子と被服の選択行動

抽出された4因子に対する選択行動の項目別要因効果を明らかにするため，分散分析による解析を

行った。選択行動の質問は8項目(SENTAKU 1～8)，5段階尺度の回答を求めたものである。その結果各因子に有意差のある項目およびセル内平均値を表4に示す。それをグラフに表したものが図11～14である。

図11から，次のような因子と選択行動の項目との関係がみられる。ファッションに対して積極的態度をとる者は，自分の被服はブランドを優先して買い，被服の購入はその時の気分による衝動買いが多いとしている。そのため必要がなくても好きなものが見つかった時に購入している。当然被服にかける費

表4　被服の選択行動の項目別因子スコアーの平均得点

因子	項目No	質問項目	セル内平均値（実数） 1 Aの方	2 ややAの方	3 とちらでも	4 ややBの方	5 Bの方	分散分析危険率
1.ファッション積極性の因子	SENTAKU 3	A．自分の被服はブランドを優先して買う。 B．ブランドにこだわらず自分で良いと思うものを買う。	−0.28	−0.30	−0.26	0.01	0.12	P<0.01
	SENTAKU 4	A．被服の購入はだいたいの計画をたて無駄のない買い方を心がけている B．被服の購入はその時の気分による衝動買いが多い。	0.27	0.01	0.05	−0.24	−0.29	P<0.001
	SENTAKU 7	A．被服は必要になった時よく購入する。 B．必要がなくても好きなものが見つかった時に購入する。	0.36	0.11	−0.11	−0.27	−0.39	P<0.001
	SENTAKU 8	A．被服にかける費用は他の人よりも多い方だと思う。 B．被服にかける費用は他の人よりも少ない方だと思う。	−0.45	−0.39	−0.08	0.10	0.38	P<0.001
2.被服行動同調性の因子	SENTAKU 1	A．自分の被服は比較的安いものを数多く持っているほうだ。 B．自分の被服は高くても良いものを買って大事に長く着ている。	0.23	0.00	0.22	−0.07	−0.44	P<0.001
	SENTAKU 2	A．自分の被服はだいたい決まった店で買う。 B．自分の被服を買う店は特に決まっていない。	−0.16	−0.06	0.07	0.01	0.20	P<0.05
	SENTAKU 4	A．被服の購入はだいたいの計画をたて無駄のない買い方を心がけている B．被服の購入はその時の気分による衝動買いが多い。	−0.16	−0.01	0.05	−0.11	0.53	P<0.001
3.自己アピール自信性の因子	SENTAKU 1	A．自分の被服は比較的安いものを数多く持っているほうだ。 B．自分の被服は高くても良いものを買って大事に長く着ている。	0.40	0.11	0.07	−0.07	−0.52	P<0.001
	SENTAKU 2	A．自分の被服はだいたい決まった店で買う。 B．自分の被服を買う店は特に決まっていない。	−0.20	−0.01	−0.21	0.19	0.11	P<0.01
	SENTAKU 6	A．被服は金銭的に余裕がある時に購入する。 B．欲しいと思えばローンを利用しても被服を購入する。	0.09	−0.01	−0.16	−0.23	−0.55	P<0.05
	SENTAKU 8	A．被服にかける費用は他の人よりも多い方だと思う。 B．被服にかける費用は他の人よりも少ない方だと思う。	−0.43	−0.35	−0.09	0.14	0.33	P<0.001
4.実利重視性の因子	SENTAKU 3	A．自分の被服はブランドを優先して買う。 B．ブランドにこだわらず自分で良いと思うものを買う。	0.29	0.43	0.14	−0.01	−0.12	P<0.1
	SENTAKU 4	A．被服の購入はだいたいの計画をたて無駄のない買い方を心がけている B．被服の購入はその時の気分による衝動買いが多い。	−0.21	−0.06	0.06	0.16	0.24	P<0.01
	SENTAKU 5	A．被服の購入はバーゲンセールをよく利用する。 B．あまりバーゲンセールを利用することはない。	−0.17	−0.06	0.20	0.02	−0.10	P<0.05
	SENTAKU 7	A．被服は必要になった時よく購入する。 B．必要がなくても好きなものが見つかった時に購入する。	−0.26	−0.04	0.21	0.18	0.11	P<0.01
	SENTAKU 8	A．被服にかける費用は他の人よりも多い方だと思う。 B．被服にかける費用は他の人よりも少ない方だと思う。	0.21	−0.09	0.22	−0.09	−0.37	P<0.001

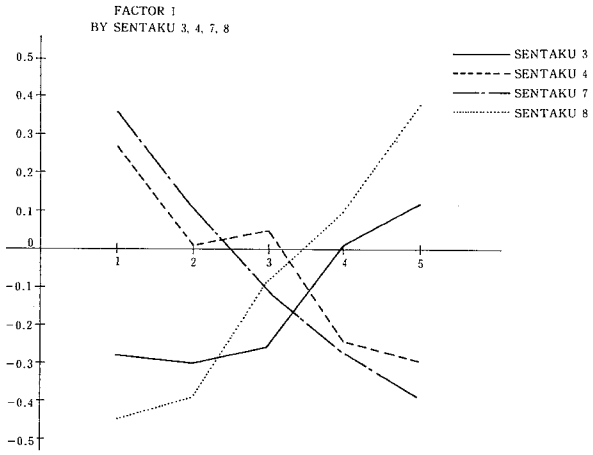


図11　ファッション積極性の因子と選択行動

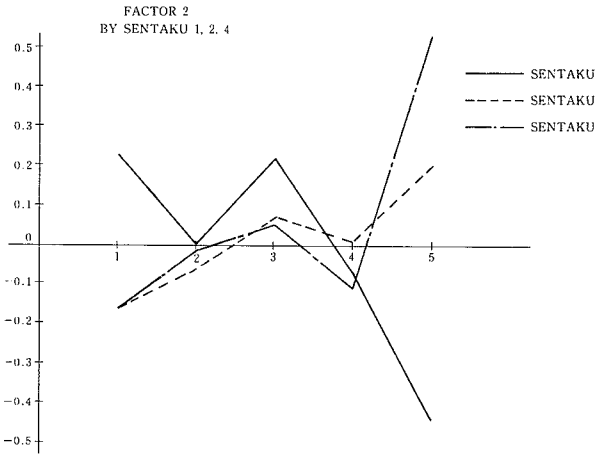


図12　被服行動同調性の因子と選択行動

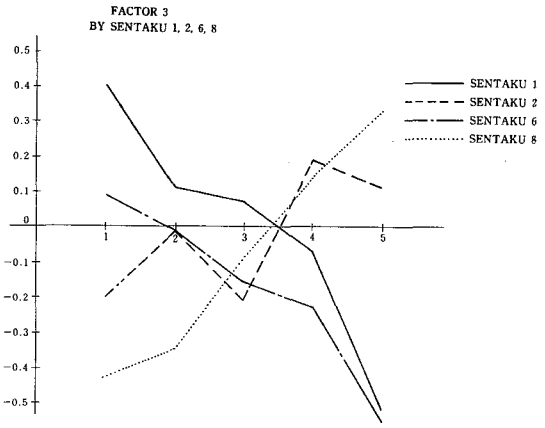


図13　自己ファッション自信性の因子と選択行動

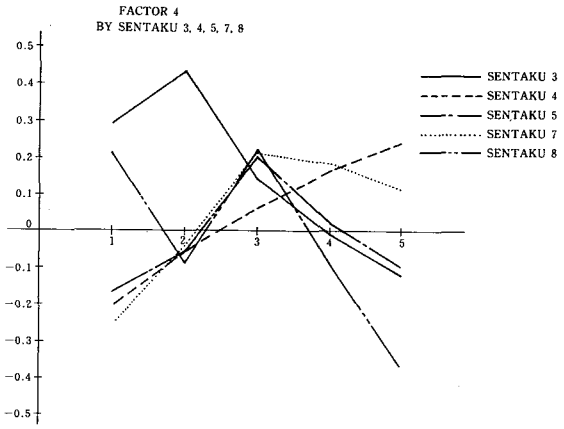


図14　実利重視性の因子と選択行動

用は他の人よりも多い方だと思っている。

図12から，次のような因子と選択行動の項目との関係がみられる。服装における規範意識の強い者は，他人の目を気にするため，自分の被服は高くても良いものを買うようにしている。また，大体決まった店で買うようにしており，どちらかといえば衝動買いよりも計画的買い方を心がけている。

図13から，次のような因子と選択行動の項目との関係がみられる。自己のファッションに自信をもっている者は，被服は高くても良いものを買うようにしており，大体決まった店で買っている。また，欲しいと思えばローンを利用しても買うとしており，当然被服費は他の人よりも多い方だと思っている。

図14から，次のような因子と選択行動の項目との関係がみられる。被服の機能・実用性を重視する者は，ブランドにこだわらず自分で良いと思うものを買うようにしており，被服の購入は大体の計画をたてて無駄のない買い方を心がけている。またどちらかといえばバーゲンセールを利用しており，必要になった時よく購入する。そして，被服にかける費用は他の人よりも少ない方だと思っている。

以上のように，それぞれの因子の平均得点から，被服行動との関係を見い出すことができ，母親・学生における被服着装の態度類型が推測可能となった。

4．要　　約

女子短大生とその母親を対象とし，被服の着装態度・選択行動を説明変数として，それぞれの被服行動の実態を把握する目的で調査した結果を要約すると，次のようなことが明らかになった。

(1)　母親と学生の着装態度に世代間の格差がおよび類似が認められる。格差の大きい着装態度は「流行への関心」，「個性的ファッション嗜好」，「変化のある服装を好む態度」，「服装によるイメージチェンジ」，「被服の実利性重視」などである。これに対し「自己を高める着装」，「自己のファッションセンスへの自信」，「調和のとれた着装」などが類似している。

(2)　母親と学生の被服に対する選択行動に世代間の格差および類似が認められる。格差のみられる被服選択行動は「価格の重要視」，「ブランドへの意識」，「購入の計画性」，「購入の必要性」などである。それに対して「バーゲンセールの利用具合」「被服費の多少」などが類似している。

(3) 被服の着装態度と選択行動からなる説明変数は，母親と学生の被服行動の判別に効果的である。特に着装態度についての項目がレンジの上位を占める。

(4) 因子分析結果より，4因子（第1因子：ファッション積極性，第2因子：被服行動同調性，第3因子：自己ファッション自信性，第4因子：実利重視性）が抽出され，両者の被服行動における潜在的な因子が明らかとなった。

(5) 抽出された4因子と被服の選択行動との関係が明らかとなった。「ファッション積極性の因子」は，「ブランド嗜好」，「衝動買い」，「必要がなくても買う」，「被服費は多い」などの項目への反応をみた。「被服行動同調性の因子」は「高価な物」，「決まった店」，「計画的買い方」などの項目への反応をみた。「自己ファッション自信性の因子」は「高価な物」，「決まった店」，「ローンを利用」，「被服費は多い」などの項目への反応をみた。「実利重視性の因子」は「ブランドにこだわらない」，「計画的買い方」，「バーゲンセール利用」，「必要時購入」，「被服費は少ない」などの項目への反応をみた。

最後に，本研究を進めるにあたりご指導いただきました梅花短期大学の家本修先生，また調査にご協力いただいた各短期大学の学生の皆様に深く感謝いたします。

本研究は山陽学園短期大学隈元美貴子先生と共同で行い，日本家政学会第39回研究発表会（昭和62年5月31日）において発表したものであることを申し添えます。

引用・参考文献

(1) 三宅一郎他：SPSS統計パッケージII解析編，東洋経済新報社（1977）

(2) 藤原康晴：被服心理学の概要，被服行動を規定する要因とその測定実習，日本繊維機械学会（1982）

(3) 中川早苗：態度と被服行動，被服行動を規定する要因とその測定実習，日本繊維機械学会（1984）

(4) 中川早苗：衣生活システムの理論的・実証的研究（第1報），家政学雑誌，Vol. 32 No.10（1981）

(5) 隈元美貴子：短大生とその母親の被服の選択行動に関する研究（その1），山陽学園短期大学研究論集，第18号（1987）